

世界防災Jr. 会議 グッド減災賞

金賞受賞!

本校の取組を世界に向け発信

多高通信

宮城県多賀城高等学校
多賀城市笠神2-17-1
発行 防災教育担当

国連防災世界会議 特集号2015.3.14-18



まちづくり一番町



最高賞の「金賞」を受賞した二年下山彩香さん(左端)と二年後藤環君(左から二人目)

東日本大震災後、地道に行ってきた本校の防災・減災教育活動が認められた。14日、仙台市民会館大ホールで行われた国連防災世界会議のパブリックフォーラム「世界防災ジュニア会議」において本校の発表「命を守る 未来に伝える」が最高賞の「金賞」に輝いた。発表者は、津波標識設置活動に参加した後藤環君(2年)と本校で行われた国際交流行事に参加した下山彩香さん(2年)。通学防災マップ、防災ワークショップを50を超す応募案件の中からこの表彰が国連防災世界会議にあわせて第1回「グッド減災賞」を募集し、仁禮彩香氏。

「グッド減災賞」で発表した内容(抜粋)

通学路の安全 「通学防災マップ」の作成



自宅から学校までの通学経路を記入家庭でも通学路を確認



多賀城市内各自治会長に活動の様子を説明

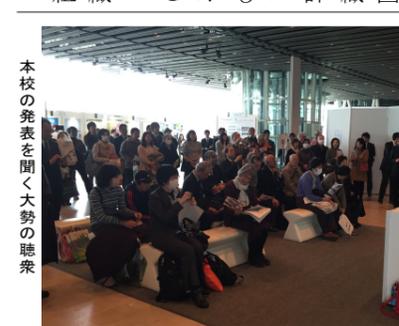
全国と交流する、発信する



ハイスクールサミットin東北 被災体験プログラム「SENDAI CAMP」

そのほかに、招待講演として、第一高等学院生徒による経験談、イタリアの高校生の防災・減災についての考えと取組、大川小学校卒業生の校舎保存に向けての活動についての報告があった。会議の途中では被災産業振興会理事である安倍昭恵首相夫人が、防災・減災に取り組む青少年へ励ましの言葉を送った。

「次世代の防災を養成する」をテーマに、被災者や関係者を育てる。15日、宮城県民会館では復興研究者の第一人者、米国パデュー大学准教授ダニエル・P・アルドリッチ氏と山形大学地域教育文化学部教授上山真知子氏の講演が行われた。講演の後、宮城県内の高校生約50名が集い「人口6万人の都市が地震に襲われた。市職員として地域コミュニティを活性化させながら災害からの復興事業を考えよ。」というテーマでワークショップを行った。



本校の発表を聞く大勢の聴衆

下山彩香さんの感想
このような大きな会場で発表しても緊張しました。他の受賞プログラムも素晴らしい。本当に私たちがもっている正しいところ、先輩から受け継がれている標識設置や国際交流など、さらに発展させながら後輩に受け継いでいくことで防災・減災につながればと思っています。



発表する後藤環君(左)と下山彩香君(右)

アルドリッチ准教授は自身がハリケーン・カトリックの被災者であり、その復興過程の研究から、地域コミュニティの大切さを統計的な解析で明らかにしている。上山教授は臨床心理学が専門で、東日本大震災直後から自宅のある多賀城市を中心に子どもや教員の心理的ケアなどにあたっている。

ワークショップでは、これらの基調講演をもとに話し合い、本校から参加者した6名の生徒も他校の高校生とグループをつくり、討議・発表した。その後、ドラムカフェ・ジャパンによる参加型パフォーマンスが行われ参加者全員でドラマをたたき交流を行った。

本校からの参加者は藤門莉生君、馬場美咲さん、鈴木理子さん、土屋七海さん、北野健人君、伊藤榛花さんですべて1年生。

「世界の防災展」では国連本部をはじめ、その組織下のユネスコ、国連開発計画など様々な機関のブースが設置された。その他にも欧州委員会、フランスやオランダの政府機関やNGO、国内の大学や研究機関、企業に至るまで幅広い組織の防災や減災に対する取組が紹介された。

その会場内に設置された発表用コーナーで15日午後、木島爽夏さん(2年)と亀山沙月さん(1年)がプレゼンテーションを行った。発表コーナーには市民の他、外国人や研究者らも数多く訪れ、一五〇名を超える中での発表となった。予想以上の人出に、準備していたパンフレットも早々になくなった。

木島爽夏さんの感想
このような発表は初めてで、考えていた以上に多くの人たちが発表を聞きに来てくれてとても緊張しました。でも私たちの活動が伝えることもやりがいがあったし、気持ちよく発表できました。

「災害に強いコミュニティ」とは？15日、宮城県民会館では復興研究者の第一人者、米国パデュー大学准教授ダニエル・P・アルドリッチ氏と山形大学地域教育文化学部教授上山真知子氏の講演が行われた。講演の後、宮城県内の高校生約50名が集い「人口6万人の都市が地震に襲われた。市職員として地域コミュニティを活性化させながら災害からの復興事業を考えよ。」というテーマでワークショップを行った。

ワークショップでは、これらの基調講演をもとに話し合い、本校から参加者した6名の生徒も他校の高校生とグループをつくり、討議・発表した。その後、ドラムカフェ・ジャパンによる参加型パフォーマンスが行われ参加者全員でドラマをたたき交流を行った。

本校からの参加者は藤門莉生君、馬場美咲さん、鈴木理子さん、土屋七海さん、北野健人君、伊藤榛花さんですべて1年生。

「世界の防災展」では国連本部をはじめ、その組織下のユネスコ、国連開発計画など様々な機関のブースが設置された。その他にも欧州委員会、フランスやオランダの政府機関やNGO、国内の大学や研究機関、企業に至るまで幅広い組織の防災や減災に対する取組が紹介された。

その会場内に設置された発表用コーナーで15日午後、木島爽夏さん(2年)と亀山沙月さん(1年)がプレゼンテーションを行った。発表コーナーには市民の他、外国人や研究者らも数多く訪れ、一五〇名を超える中での発表となった。予想以上の人出に、準備していたパンフレットも早々になくなった。

木島爽夏さんの感想
このような発表は初めてで、考えていた以上に多くの人たちが発表を聞きに来てくれてとても緊張しました。でも私たちの活動が伝えることもやりがいがあったし、気持ちよく発表できました。

そのほかに、招待講演として、第一高等学院生徒による経験談、イタリアの高校生の防災・減災についての考えと取組、大川小学校卒業生の校舎保存に向けての活動についての報告があった。会議の途中では被災産業振興会理事である安倍昭恵首相夫人が、防災・減災に取り組む青少年へ励ましの言葉を送った。

そのほかに、招待講演として、第一高等学院生徒による経験談、イタリアの高校生の防災・減災についての考えと取組、大川小学校卒業生の校舎保存に向けての活動についての報告があった。会議の途中では被災産業振興会理事である安倍昭恵首相夫人が、防災・減災に取り組む青少年へ励ましの言葉を送った。

そのほかに、招待講演として、第一高等学院生徒による経験談、イタリアの高校生の防災・減災についての考えと取組、大川小学校卒業生の校舎保存に向けての活動についての報告があった。会議の途中では被災産業振興会理事である安倍昭恵首相夫人が、防災・減災に取り組む青少年へ励ましの言葉を送った。

そのほかに、招待講演として、第一高等学院生徒による経験談、イタリアの高校生の防災・減災についての考えと取組、大川小学校卒業生の校舎保存に向けての活動についての報告があった。会議の途中では被災産業振興会理事である安倍昭恵首相夫人が、防災・減災に取り組む青少年へ励ましの言葉を送った。

そのほかに、招待講演として、第一高等学院生徒による経験談、イタリアの高校生の防災・減災についての考えと取組、大川小学校卒業生の校舎保存に向けての活動についての報告があった。会議の途中では被災産業振興会理事である安倍昭恵首相夫人が、防災・減災に取り組む青少年へ励ましの言葉を送った。

そのほかに、招待講演として、第一高等学院生徒による経験談、イタリアの高校生の防災・減災についての考えと取組、大川小学校卒業生の校舎保存に向けての活動についての報告があった。会議の途中では被災産業振興会理事である安倍昭恵首相夫人が、防災・減災に取り組む青少年へ励ましの言葉を送った。

一五〇名を超す聴衆の前でプレゼンを行う木島さん(左)と亀山さん(右)